



白河内古墳石室の壁画



第 4 号

平成 11 年 6 月 1 日 発行
那珂町歴史民俗資料館
(那珂総合公園内)

戸崎428-2 ☎ 297-0 0 8 0
FAX 297-0 0 7 5

県指定 鈴木家住宅 (書院)



那珂町の文化財(2)

額田鈴木家と書院

太田街道 (国道三四九号線) 額田宿十字路を西 (額田駅方面) へ約百メートルほど行くと、左側に鈴木家住宅 (書院) がある。

鈴木家は、江戸時代庄屋を務め、水戸藩二代藩主光圀が西山荘へ行く途中に立ち寄ったと伝える文書が残っており、光圀の娘まり姫を嫁に迎えたほどの旧家である。また、九代藩主斉昭も天保四年 (一八三三年) 瑞竜山墓参の折、立ち寄った記録もある。

書院は、主屋などとは別に離れ座敷として建っていて、貞享四年 (二六八七年) 光圀が宿泊するため建てられたと伝えられる。痕跡から見て、当初は桁行五間 (九・一メートル) ・梁間三間 (五・五メートル) の建物であったが、近年西側面と背面に棧瓦葺の底を付けた下屋を設け、桁行六間・梁間四間となっている。

建築年代については、元禄時代 (二六八八〜一七〇四年) 頃と言う伝承があり、また建物の細部の手法などからみて、ほぼ伝承通り一七世紀末〜一八世紀初期と推定される。

屋根は、寄棟造・茅葺で、木舞

裏には化粧垂木を用い、三面に拭い板の樽縁を巡らす。縁の板は奥の間の前が特に古く、当初材と思われる。内部は八畳二室で、敷居の真下、縁板との間に切目長押を巡らし、面皮付きの内法長押に釘隠しの金具を打ち、竿縁天井を張る。ただし江戸後期の数寄屋造りの座敷と違って、面皮付き内法長押や竿縁に多少野性味があり、建築年代の古さが感じ取れる。

両室境には格式ある笈欄間を入れ、奥の間背面には右側に床の間と左側に押入を並べ、脇に平書院を設ける。書院の流水に浮かぶ花をあしらった板欄間は注目される。また、両室と鍵の手に巡る縁との間に建てた明り障子の腰は、成が低く、吹き寄せの堅棧は優美である。

また、奥の間の周りに設けた築山庭には、町指定天然記念物の古木モチノキ二本も植わっている。年代からみて、書院が建てられた頃光圀が移植したともいわれている。

書院は昭和四十七年県指定 (建造物)、モチノキは同四十九年町指定になった。

館内展示品解説(二)

中世

①

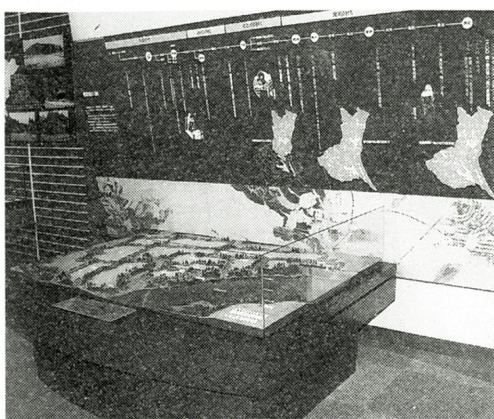
額田城の攻防

館内の奥正面に、かつての額田城「推定復元模型」と「年表」が展示されています。

額田氏の始祖は、太田の佐竹氏宗家五代義重の第二子義直で、建長年間(一二四九～五五年)額田に城を築き、額田氏を称しました。

当時の額田城は、溜池、水田、谷地に囲まれた島状の台地につくられ、南北約八四〇メートル。東西約一一四〇メートルとかなりの規模をもち、本丸・二の丸・三の丸の複郭型城郭でした。

その額田氏も、約一七〇年後の



額田城推定復元模型

②

那珂町の城館跡

応永三〇年(一四二三)、一〇代義亮は佐竹氏宗家と対立し、落城され、その後、佐竹氏の家臣小野崎氏が城主として入りました。この小野崎氏も、七代照通のとき再び佐竹氏宗家と対立しました。関ヶ原の戦いの九年前、天正一九年(一五九一年)佐竹氏二〇代義宣に攻められ落城し、照通は陸奥へ逃れました。ここに、額田城は前後合わせて一七代、約三四〇年の歴史を閉じたのです。

那珂町には、額田城をはじめとして、佐竹一門の居城の跡がいくつか残っています。

戸村城は、那珂能通の築城ですが、瓜連合戦(一三三六年、南北朝の戦い)により佐竹氏のものとなりました。

また、この合戦の後、那珂通辰の一子通泰が築いたのは江戸城です。そのほか、加藤安房守館跡・藤咲丹後館跡・平野豊前重資館跡・宮田掃部助館跡・南酒出城跡など数多く残っています。

このコーナーでは、これら城館

③

佐竹氏と武家文化

跡の現在の姿を写真で、また、その位置を地図で示しています。

佐竹氏二〇代義宣と、義宣の茶の湯の師匠千利休・古田織部の肖像画や、茶壺が展示してあります。

義宣は、豊臣秀吉の側近として、上洛生活をしており、その際、茶の湯を大いに好み、千利休や古田織部に師事しました。

このほか、武士の風儀に合う連歌や能楽、狂言なども流行しました。このように、戦乱の中の武士たちの間には、静かさや楽しさを求める文化が栄えたのでした。

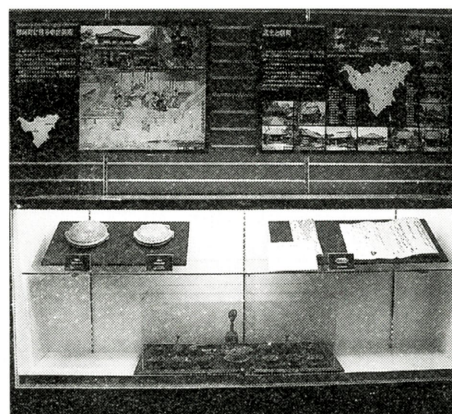


佐竹氏と武家文化

④

武士と信仰

ここには、「町内の神社・寺院分



武士と信仰

布図」、「町内に残る中世美術」の写真パネルと、「密教法具一式・鰐口」、「大般若経」の実物が展示してあります。

佐竹氏を中心とする那珂町の武士たちは、武運祈願や子孫繁栄のために神社を信仰し、仏教を受容してきました。

その頃を創立とする神社も、那珂町に数多く残されています。佐竹氏は真言宗を本宗に、一乗院(太田→水戸→飯田)を建て祈禱寺とし、祈願所として三島神社(本米崎)を開きました。

また、明応六年(一四九七年)額田城主小野崎下野守善通外五人が檀那となり、額田郷鎮守八幡宮に奉納したといわれる「紙本墨書大般若経」は、現在、県指定文化財になっています。(額田毘盧遮那寺所蔵)

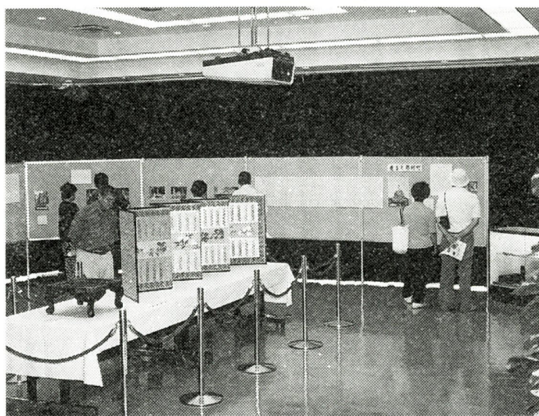
特別企画展 第5回「光圀・斉昭・慶喜と那珂町」 第6回「那珂町の文化財展」開催される

光圀・斉昭・慶喜と那珂町

昨年7月25日～8月9日までの14日間、那珂町歴史民俗資料館で開催しました。

この特別企画展はNHK大河ドラマで放映された「徳川慶喜」のブームにあわせ、さらに水戸徳川家を代表する光圀・斉昭にスポットをあて、那珂町との関わりを探ろうと開催したものです。

開催にあたっては、町内の水戸徳川家に関わりのあつた社寺や家々にご協力を頂き、光圀・斉昭・慶喜ゆかりの品等34点を展示することができました。期間中の入館者は一、〇八〇名（町内五四二名・町外五三八名）でした。



「光圀・斉昭・慶喜と那珂町」展示会場

額田宿は、水戸と水戸徳川家の墓所がある常陸太田の中間に位置し、当時の庄屋鈴木家に光圀・斉昭が、寺門家には慶喜が墓参の際に休憩のため立ち寄りしました。

展示品の中には、その時光圀が使用した葵の紋の入った漆塗のお茶台・斉昭が残した短歌や掛軸・慶喜が使用したといわれる枕屏風など大変貴重なものもあり、それらを目にした多くの来館者から「素晴らしい。」「こんな間近かに見られて感激。」等賞賛の声がきかれました。

また、故郷にまつわる水戸家との関わりを知ることができ、勉強になったという意見も多数頂きました。来館者の多くが初めて水戸徳川家と那珂町の結びつきを知り、那珂町の歴史の深さに驚いたようでした。

那珂町の文化財展

昨年11月1日～11月29日までの25日間、那珂町歴史民俗資料館で開催しました。

那珂町には国・県・町指定の文化財が45件あり（平成10年11月1日現在）、那珂町の歴史を物語る貴重な財産であるこれら文化財を町民の皆様に紹介し、郷土理解と文化の香り高い町づくりに寄与しようとして開催しました。入館者は一、一七七名（町内八六六名・町外三一名）でした。

この特別企画展に際し、文化財を所有している方々の協力を得て仏像など実物18点、写真パネル27点の計45点を展示することができました。中でも実物展示をした町指定文化財の「三十六歌仙図」と「七福神図」に多くの関心が集まり、「間近かに見られて良かった。」「庶民信仰の対象がわかって面白い。」等の感想が寄せられました。

一方で、「写真展示が多く物足りない。」「という意見もありましたが、写真パネルで紹介した国指定文化財「紙本著色聖徳太子絵傳」や県指定文化財「鈴木家住宅」には、「写真での紹介だったが、歴史の重さが伝わってきた。」「ぜひ時間を作って実物を見てみたいと思う。」といった声もきかれました。中には、企画展を見たその場で、文化財マップを頼りに文化財めぐりをするという方も見受けられ、来館者の文化財に対する関心の高さが伝わってきました。



「那珂町の文化財展」展示風景

「出展協力者氏名」

―五十音順・敬称略―

◎光圀・斉昭・慶喜と那珂町

阿久津多門（田崎）・畔野勝一（鴻巣）・大和田まさ（飯田）・小宅近昭（菅谷）・海後宗文（本米崎）・鹿島一美（田崎）・鈴木とし子（額田南郷）・萩谷隆文（後台）・松山栄（戸）・横須賀一（菅谷）・和田力隆（菅谷）

▼協力機関

一乗院（飯田）・茨城県立歴史館（水戸市）・引接寺（額田南郷）・鹿島神社（菅谷）・常磐神社義烈館（水戸市）・額田神社（額田北郷）・幕末と明治の博物館（大洗町）・不動院（菅谷）

◎那珂町の文化財展

秋山護（下江戸）・浅野和（豊喰）・阿部隆夫（門部）・柏村豊（菅谷）・勝山修身（北酒出）・草野昇（額田東郷）・坂本勝（豊喰）・鈴木千代吉（額田南郷）・鈴木とし子（額田南郷）・住谷貢（堤）・高橋脩（福田）・藤堂貞雄（額田南郷）・飛田もと子（菅谷）・飛田良（菅谷）・山田満彦（西木倉）・綿引義長（戸崎）

▼協力機関

阿弥陀寺（額田南郷）・一乗院（飯田）・引接寺（額田南郷）・鹿島神社（菅谷）・鹿島神社（門部）・清水寺（東木倉）・上宮寺（本米崎）・蒼龍寺（南酒出）・堤区・毘盧遮那寺（額田北郷）・不動院（菅谷）・三島神社（本米崎）・吉田神社（東木倉）・麟勝院（額田南郷）・鷲神社（鴻巣）

特別展の開催にあたり、ご協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。

目安箱(アンケート)より

(1) 展示コーナーベスト3

1 舟形石棺と映像「水鳥が語る
古代のロマン」

2 大助祭 菅谷上之町の山車
農家のくらし・曲がり付き民
家・長屋門

(2) 入館者の感想・意見

●旧芳野村で生まれたが、60代に
なりこのように歴史として自分
の故郷を見ることができ感激し
た。

●身近すぎて気がつかなかった故
郷の歴史の深さに感動した。
(埼玉県 女性)

●那珂町は歴史の表舞台ではない
けれど、中継地点として重要な
場所であったことが分かった。
(水戸市 女性)

●今まで町の歴史に触れる機会が
なかったが、ここへ来て知るこ
とができ良かった。

とができ良かった。

●説明が分かり易い。受付も明る
く親切で、大変気持ち良く見学
できた。
(町内 女性)

●体育館に来ていて偶然資料館を
知った。せっかくこれだけのもの
があるのだから、もっとPR
したら良いのではないか。
(町内 男性)

●那珂町の由来がわかり非常に良
かった。何度来ても良い。
(町内 男性)

(3) 今後の企画展の希望

●那珂町出土の土器展

●人形の展示

●町の民間信仰やお祭りについて

●舟運・街道について

●那珂・久慈川の漁具や周辺の生
活について

●貴重な意見・感想ありがとうございます。

平成10年度資料寄贈・寄託者名

― 受付順 敬称略 ―

〔寄贈品及び寄託者名〕

・脱穀調整機・動力製縄機・水田
苗代締器 菅谷 大和田勤

・製筵機 鴻巣 宮本 強

・百萬遍講用具一式 戸崎 寺門 昭

・石斧 飯田 小林 通

・弥生式土器 中台 石川和泉

〔寄託品及び寄託者氏名〕

・磨製石斧 門部 中井川裕一

・銭櫃・五両升 菅谷 横須賀 一

・埴輪2点 額田北郷 渡辺 明

寄贈・寄託者の皆様に厚く御礼
申し上げます。

今後資料館の充実を図ってま
いりますので町の歴史や民俗に関
する資料等がありましたら、皆様
のご協力をお願いいたします。

《特別企画展のお知らせ》

平成十一年度の計画

○「那珂町先住民の遺産」

・町内遺跡出土土器展

・会期七月十七日～八月三十一日

○「わが家の秘蔵品展」

・平成九年度に続き第二
三回を地区毎に公開展
示する。

・第二回 会期 十一月

・神崎・額田・

・第三回 会期 二～三月

・五台・戸多・

・芳野・木崎地区

※詳細については、後日「広
報なかおしらせ版」等で
お知らせします。

〔編集後記〕

水鳥四号をお届けいたします。

昨年度も7月、11月と2回特別企
画展を開催することができました。

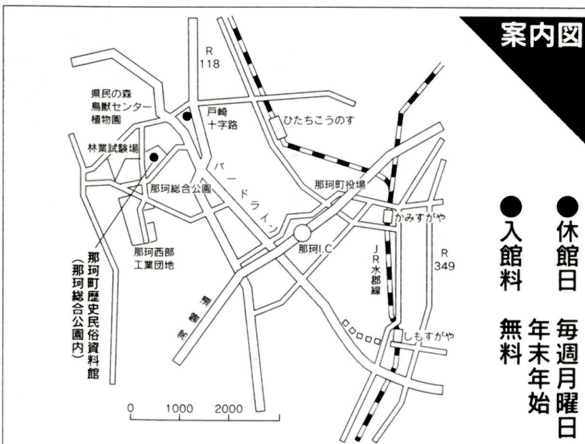
特に「光圀・斉昭・慶喜と那珂町」
は、茨城放送でも紹介されたためか、
町外からの来館者が多数ありました。

例年通り一月から、町内の小学三
年生の社会科見学にあわせ、「昔のく
らし」の展示を行いました。さらに
学習を充実してもらおうと、「昔の道
具」・「昔のくらし」のビデオを購
入しました。一般の方にも希望者に
は上映しますのでお気軽にお申し付
け下さい。

資料館の充実を図るため、昨年度
も展示品等の寄贈・寄託をいただき
ました。関係の皆様にお礼申し上げ
ます。

町民の皆様のご来館を心からお待
ちしております。(事務局)

案内図



●休館日 毎週月曜日
年末年始

●入館料 無料